



平成 29 年 5 月 10 日

海 上 保 安 庁

海賊対策のためフィリピンへ海上保安庁航空機を派遣します

～海賊等事案多発海域上空を訓練飛行～

海上保安庁は、5月12日から5月14日の間、海上保安監を団長として、航空機をフィリピン共和国へ派遣し、海賊対処に係る連携訓練、意見・情報交換を実施し、更なる連携・協力関係の強化を図ります。

海賊をはじめ、海の安全を危うくする脅威に対して、法の支配を通じ自由で開かれた安全な海洋を実現することは、地域の平和と繁栄を支える上で不可欠です。このため、海上保安庁は東南アジア自身の努力を後押しする観点から、東南アジアの海上保安機関との間の連携・協力関係を構築、推進しています。

今回の派遣では、本年 1 月に締結した日比海上保安機関間の長官級協力覚書に基づく具体的な取り組みとして、フィリピン沿岸警備隊及びReCAAP情報共有センター※とともに、海賊対処連携訓練を行い、海賊等事案多発海域上空を飛行する予定です。

なお、今回は日本から供与したフィリピン沿岸警備隊の40メートル級巡視艇と当庁航空機が初めて連携訓練を行います。

1. 派遣航空機

第十一管区海上保安本部那覇航空基地所属
ファルコン 900「ちゅらわし」



全長	20.2メートル
全高	7.5メートル
全幅	19.3メートル
速力	501ノット

2. 派遣者

岩並 秀一(いわなみ しゅういち) 海上保安庁海上保安監
他11名(搭乗員含む)

3. 派遣国(寄港地)

フィリピン共和国(マニラ)

4. 日程等

5月12日(金) 那覇発、マニラ着、意見・情報交換

5月13日(土) フィリピン沿岸警備隊等との海賊対処連携訓練

5月14日(日) マニラ発、那覇着

※ ReCAAP 情報共有センター

ReCAAP 情報共有センターは、海賊・海上武装強盗対策のための地域協力を促進する国際機関で、2006年に発効した ReCAAP(アジア海賊対策地域協力協定)に基づきシンガポールに設置され、海賊等の情報共有等を実施。日本からは歴代事務局長及び事務局長補が派遣され、うち事務局長補は海上保安庁から出向。